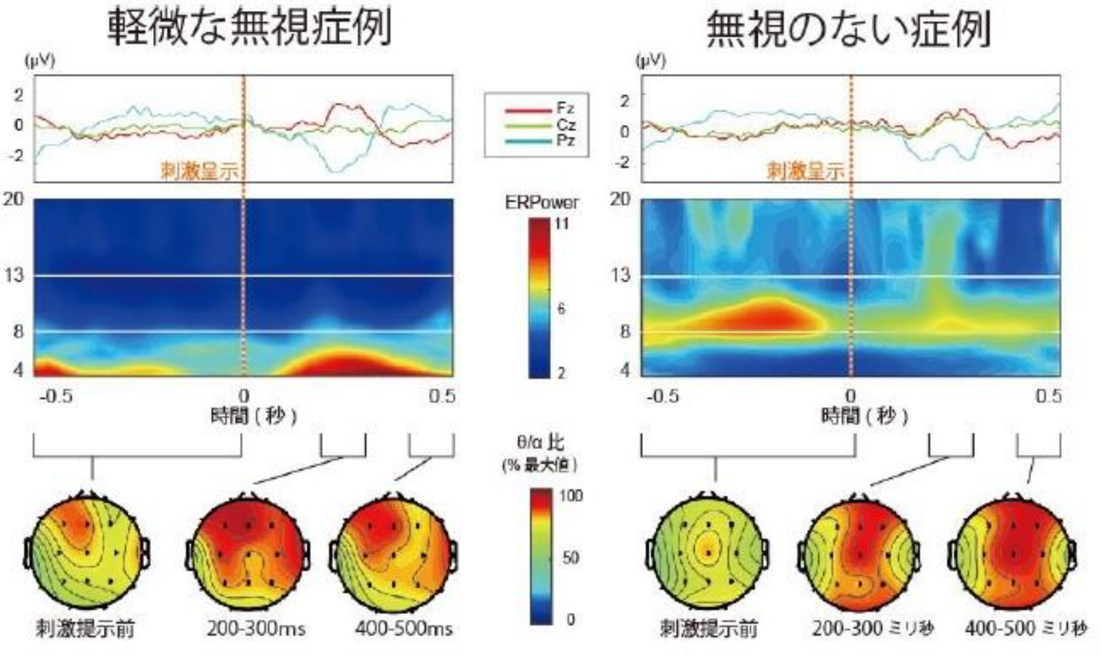
１４．トピックス

１４．１．大学院生の研究成果が国際ジャーナル「Brain」に掲載

畿央大学院健康科学研究科博士後期課程の高村優作さん（医療法人穂翔会 理学療法士），国立障害者リハビリテーションセンター研究所運動機能系障害研究部の河島則天室長（兼畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター 客員教授），畿央大学ニューロリハビリテーション研究センターの森岡周教授らの研究グループの研究成果が国際ジャーナル「Brain」に掲載されました．本研究は，脳卒中後に生じる「半側空間無視」の回復過程に関する重要な発見であると国際的に評価されました．研究グループは，半側空間無視の回復過程にある症例の多くが無視空間に注意を向けすぎる傾向があることを明確にし，脳の前頭領域を過剰に活動させる結果，疲れやすさや運動遂行の非効率化を招いていることを明らかにしました．今後の研究により，過剰に注意配分を行うことなく無視空間への気づきを高められるようなリハビリテーションを構築することで，日常生活での困難改善につながる可能性があります．



この成果は 9 月 23 日付けで『Brain』に掲載されています．

Takamura Y, Imanishi M, Osaka M, Ohmatsu S, Tominaga T, Yamanaka K, Morioka S, Kawashima N. Intentional gaze shift to neglected space: a compensatory strategy during recovery after unilateral spatial neglect. Brain. 2016.

１４．２．第２回シニア講座「腰痛の理解を通じて考える脳と痛みの関係」

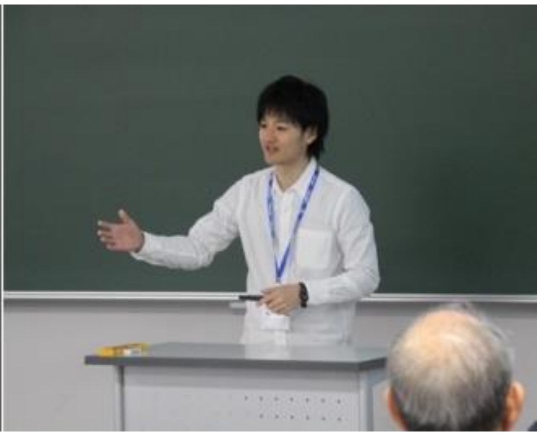
2016 年 9 月 6 日（火），地域のシニア世代の方々を対象に「健康」と「教育」について学びを深めるための「畿央大学シニア講座」を開催しました．昨年からスタートした講座であり，第２回目では「腰痛の理解を通じて考える脳と痛みの関係」をテーマに，座学による講義だけでなく体験を交えながら最新の知見を学んで頂きました．

ニューロリハビリテーション研究センター大住倫弘特任助教が信迫悟志特任助教と共に、「痛みとは」「痛みの捉え方・伝わり方のしくみ」「脳と痛みの関係」などについて資料を提示しながら説明をしました．日々生活する中で，身体の痛みと付き合いながら生活をされている参加者の方も多く見られ，熱心に耳を傾けて頂きました．

参加者の方からは、「痛みについて理解が深まった」「今後も継続して運動を行っていきたい」などの声を数多く頂き，第２回シニア講座は好評に終了しました．

１４．３．第 15 回畿央大学公開講座 「長引く腰痛の科学的なリハビリとは？」

2017 年 2 月 24 日（金）第 15 回畿央大学公開講座では，ニューロリハビリテーション研究センター大住倫弘特任助教が「長引く腰痛の科学的なリハビリとは？」を開催しました．



本講座では，腰痛に対するリハビリとして，「痛みのしくみを知ること」「運動すること」を中心に学んで頂きました．具体的には，急性痛と慢性痛の違い，運動によって痛みが改善するしくみ，あるいはどのような運動が痛みの改善をもたらすのかを科学的に説明して頂きました．最新の知見を図や表を使ってわかりやすく丁寧に説明して頂き，受講者の皆様も熱心にメモをとられていました．

受講後のアンケートでは，「腰痛に対する理解が大きく変わった」「先生の説明が非常にわかりやすく，これからの生活に役立った」「最新の情報で解決していく勉強ができて良かった」，「腰痛体操の機会を設けていただきたい」など多くのご意見を頂き，満足して頂けたようでした．